



同窓会会報

発行

福島成蹊高等学校
同窓会

福島市上浜町5-10

電話（522）2049

発行人 石井 都

印刷所 ㈲三共印刷所



平成2年度 卒業アルバムより



同窓会の充実を目指して

同窓会会長 石井 都
(昭和41年度卒)

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

例年になく猛暑の日々が長く続き、秋の気配を楽しむ間もなく、吾妻の峰が、うつすらと雪化粧を施して、季節の流れの早さを感じた一年でした。

昨年の総会席上にて、皆様に提案致しました運営協力費の準備が整いました。なお、支部設立の件は、進行中です。重ねて、御協力お願い致します。

総会後は、母校吹奏楽部の迫力ある演奏曲の数々に、感激と感動の一時を思う存分堪能致しました。顧問の先生方、指揮者の中島先生、ありがとうございました。吹奏楽部の増々の御活躍を願ってやみません。

桃李祭に、同窓会室を開放

母校は「成蹊」と言える誇り

して、皆様を、お待ちしております。松本アツ子さんが、卓球部の後輩、伊藤さんと見えて当時の話に花が咲きました。その後も、お子さん連れの方卒業したばかりの男性の方々も足を運んで下さって、金子先生との会話も弾み、高校生に戻った様な一日でした。

在校生の様々な活躍に目を見張った年でもありました。新聞紙上に踊る母校の名を、誇らしげに目で追った方も、いたのではないのでしょうか？今回七面に紹介してありますのでぜひ御覧下さい。

百周年事業準備委員会も、発足致しました。

伝統ある母校の同窓会運営に皆様一人一人の力が必要になってまいります。御指導、御協力を、よろしくお願い致します。

同窓会総会に参加して

佐藤美弥子

（昭和39年度卒）

同窓会へは何度か出席させてもらい楽しみにしております。同じ教えの元に学んだ者同士話もはずみ、又母校は成蹊と言える誇りを感じます。その母校も今や男女共学、中高一貫の教育理念のもとめざましい発展を続けており頼もしい限りです。総会後は諸先生のお話や近況報告があり、吹奏楽部による演奏の数々に感銘を受け今後の活躍に期待の拍手を送りました。母校の創立百周年にむけて、これからも増々の活躍と発展を願いながら会場を後にしました。

光家 陽子

（平成21年度卒）

福島成蹊高等学校を卒業して約八ヶ月経ちますが、高校時代の出来事は今もはっきりと覚えています。六月にありました同窓会では多くの先輩方に暖かく迎えて頂き、緊張していた心も一瞬に消えてしまいました。本田校長先生をはじめ、お世話になった先生方や友人に再会し、幸せな時間が過ぎました。吹奏楽部の演奏には感銘を受け、改めて、成蹊高校の吹奏楽部のレベルの高さと音楽の素晴らしさを実感させて頂きました。

柏原 奈苗

（平成21年度卒）

今回、同窓会総会に出席して先輩卒業生の方に会えたり、後輩や先生方に会うことができると嬉しく思いました。それと同時に、ついこの間までは、高校生活をしていたと思うと月日の流れは早いなあと感じました。同窓会に参加した事で友達と会えた事ばかりでなく、最近の成蹊高校の



吹奏楽部の演奏



恩師とともに



役員一同

様子を知る事ができ、今までの学校の歴史や流れを在学中には分からない所があったので知る事ができとても良かったです。これからの生活において、母校で過ごした時間を胸に刻み、頑張りたいと思います。

福島成蹊高等学校同窓会一般会計決算書

平成21年4月1日～平成22年3月31日

1. 収入金額 1,583,729 2. 支出金額 1,098,436 3. 差引金額 485,293

収入の部				
項目	本年度予算額	本年度決算額	増減	適用
会費	1,328,000	1,308,000	△20,000	4,000×327人
預金利子	1,500	355	△1,145	普通預金利子
雑収入	5,000	0	△5,000	
繰越金	275,374	275,374	0	前年度より繰越
合計	1,609,874	1,583,729	△26,145	
支出の部				
項目	本年度予算額	本年度決算額	増減	適用
事業費	500,000	263,544	△236,456	総会等
会議費	100,000	22,079	△77,921	役員会、幹事会
会報発行費	130,000	152,775	22,775	会報第16号
協力費	400,000	259,390	△140,610	全国大会激励、広告協賛費
交誼費	50,000	54,698	4,698	慶弔費
通信費	80,000	30,980	△49,020	切手、名簿補助等
旅費	10,000	0	△10,000	
事務費	50,000	14,970	△35,030	印刷費等
特別積立費	200,000	300,000	100,000	基金積立
予備費	89,874	0	△89,874	
合計	1,609,874	1,098,436	511,438	

特別積立金（平成22年3月31日現在） 12,244,426円

上記帳簿及び関係書類について監査の結果正確であることを認めます

平成22年4月27日 監事 杉内 文子 櫻内真智子

会 務 報 告

平成22年

- 4月 8日 入学式
- 10日 定例役員会
- 27日 会計監査
- 5月 8日 定例役員会
- 6月12日 墓参（初代・4代校長）
- 13日 総会開催
- 21日 総会反省会
- 7月10日 定例役員会
- 9月 5日 桃李祭
- 16日 会報17号編集委員会
- 10月 9日 定例役員会
- 11月13日 定例役員会
- 12月11日 定例役員会

平成23年

- 1月15日 定例役員会
- 25日 会報17号編集委員会
- 28日 新幹事顔合わせ会
- 2月28日 入会式
- 3月 1日 卒業式



ご挨拶

理事長 近野 輝雄

福島成蹊学園同窓生には、ご健勝で過ごしのこととお喜び申し上げます。私、理事長に就任したのが昨年の12月でしたので今年初めて同窓会総会に出席させていただきますました。同窓生の出席は役員の方を中心に年配の方々が多かったようですが、高校を卒業したばかりの新同窓生の参加も結構あり、会に花を添えていた様に感じました。中々難しいとは思いますが、各年代の卒業生がバランス良く出席していただければ一層、会は盛り上がるのではないのでしょうか。ところで、ご存知だと思いますが本校は間もなく記念すべき百周年を迎えます。先日、百周年準備委員会を発足させ準備に取りかかりました。対外的な本校アピールの絶好の機会でもありますので、今の成蹊に相応しい記念事業を行いたいと思っております。同窓生の皆様には物心両面の御協力をお願いすることになります。何卒よろしくお願い致します。



成蹊中学の朝礼に思う

校長 本田 哲朗

同窓会の皆様、日頃私どもの教育活動に物心両面にわたるご理解とご援助を賜り誠に有り難うございます。紙面をお借りいたし心からお礼を申し上げます。間もなく一世紀を刻まんとする中、昨年中学校が復活致しました。授業を離れた私は生徒に直接訴える機会とし、朝の挨拶と月曜日に朝礼を行っております。朝の挨拶（元氣）は彼らの

心のバロメータ、毎日顔を合わせる事が楽しみななっています。また、朝礼ではキラキラと輝くひとみに視線がぶつかり、耳をそばだててくれます。しばし緊張の中、例えば「夢や気概」を失わない様に、「先を意識して欲しい」との想いです。皆様にとってはお孫さんの様な中学生、ぜひ中学校にも足を運んでみて下さい。

福島成蹊中学校校舎増築工事竣工

常務理事 高橋 幸七

開校三年目となるこの四月、福島成蹊中学校全学年生徒が揃うこととなります。このことを前に、昨年七月より中学校校舎増築工事が実施されておりましたが、同窓会様始め関係者各位のご協力により工事は順調に進められ、今年一月に竣工いたしました。これにより、平成二〇年度における校舎建築第一期工事、平成二一年度における茶室建築工事と続いた一連の中学校整備

【増築工事の概要】

造り：鉄筋コンクリート三階建て（一部鉄筋）

区 分	増築部分	既存分	完成後
校舎建築面積	249.15㎡	599.40㎡	848.55㎡
校舎延床面積	777.60㎡	1,555.20㎡	2,332.80㎡
自転車置場面積	43.44㎡	86.88㎡	130.32㎡

新たに整備された部屋

普通教室2、演習室2、多目的ホール、理科室、美術・音楽室



多目的ホール

事業は、校地活用方法が一部未定の部分を除き概ね完了したことになります。これまでは、その多くを高学校校舎で実施していた理科・美術・音楽の授業、さらに体育の一部授業を中学校校舎で行うことが出来たので、生徒・教員の移動負担が一気に軽減され、移動中における事故の心配も少なくなりました。また、多目的ホールは椅子席で約三百数十名を収容でき、中学校独自の行事、集会等での活用が可能となりました。本学園は、創立百周年を二年後に控える中、今後とも高の教育環境整備に努めてまいります。同窓会の皆様の絶大なご協力をよろしくお願い申し上げます。

中学校を訪問

松本アツ子

佐藤ヒサ子

佐藤 みね

（昭和27年度成蹊中卒）

平成22年11月18日、60年前の中学校の同級生3名が高校や中学校のいろいろな話題を耳にするにつけ「一度、この目で見たい」と来校された。男女共学の高校で男子生徒のあいさつを受けたり、中学校の施設設備や生徒の授業の様子などを見学し、自分達の時代の粗末なそれと比較して恵まれた環境を大変喜んでおられた。そして、生徒達の学習態度や挨拶の良さに感心もしておられた。「60年前は皆なと同じだったんだよ」と言う先輩方に、生徒達は「そうなんだ。中学校があったんだ。すごい」と瞳を輝かせながら頷いていた。



同窓生の今・・・

福島のシンボル信夫山

鈴木 美沙

(昭和14年度卒)



真赤なもみじ
が手をさしのべ
る。枯れ枯れの
風に舞うもみじ。

きびしい現世をくぐりぬけて
きたもみじ。その姿は人生の
一コマでもあります。

信夫山はいつも生きること
は何かを教えてくれます。

はるかに流れ行く雲の彼方
に遠い日の先生方のお顔が、
特に恩師明石先生の国語の時
間、今も鮮明に浮かんでいま

す。卒業後、福島ドレメ師範
科卒、母校の教職に十三年余、
デザイナー二年を経て現職に、
服飾とちぎり絵(福島ミレー
(美鈴)の会(二十年))に

余生を……。なつかしい成蹊。
御校の輝かしい前途を心より
お祈り申し上げます。

野口記念医学研究所(ガーナ)で
標本作製を指導

富田 マツ

(昭和25年度卒)

高校では生徒会・新聞局等

で活躍した。昭和25年七月に
は当時の大竹県知事と対談し
たことが福島民友新聞に掲載
されている。高校卒業後福島
県立医科大学に就職し、病理
学研究室勤務となる。結婚後
は厚生技官として国立予防衛
生研究所に移職した。

50歳代でガーナ共和国の野
口(英世)記念医学研究所に
単身派遣され、顕微鏡組織標
本作製の指導にあたり功績を
えた。また世界50カ国以上を
歴訪しグローバルな視野を持
つ女性である。

尚、平成14年、17年と紺綬
褒章を2回受賞している。

母校に著書寄贈

本多 千鶴

(昭和27年度卒)

構想10年を経て、平成21年
に著書「真珠」を出版する。
75歳での大作であり、息子
さんを6年前38歳の若さでな
くし、鎮魂の思いを込めた書
でもある。出版を記念し、後
輩たちの情操教育の一助にな
ればと中学校・高校の夫々の
図書室に寄贈された。

本多さんは高校生当時から
文学少女であり、大手新聞社
の主催するコンクールに童話
を投稿入選し、その道の権威
である童話作家の浜田廣助先
生の講評
をいただ
いたこと
もある。



藍綬褒章受賞

丹治 トク

(昭和41年度卒)

昭和五十六年から県の統計
調査員を努め三十年目。二地
区で年間二十八世帯の家計調
査を担当している。熱心に足
を運び実態把握に努めている。
楽しく学ぶものが多い。市
民の協力を励みに頑張ります。

母校にエールを

武井 華子

(昭和42年度卒)

成蹊高校の道路向かいにあ
る福島敬香保育園が私の仕事
場です。今年も園の餅つき大
会で成蹊生との交流を持ちま
した。園児の手に丸めたお餅
をのせてやる女子生徒、腰が
定まらずフラつきながら杵を
上げる男子生徒を見ながら、

今ある自分の「はじめの一
歩」が、あの年齢だったたと
振り返っています。そして今
成蹊高校との交流の中で、い
つもエールを送れることの幸
せを感じているところです。
後になつてしまいました、
成蹊高校及び同窓会のさらな
る発展を心から祈っております。



母校の教壇に立つて

栃久保晴佳

(平成16年度卒)

教員として母校に戻ってく
るという夢が叶い、この上な
い喜びと充実を感じておりま
す。この成蹊高校で過ごした
三年間がなければ、これほど
にも強く教員になりたいと思
うことも、今の私もなかった
と思います。

伝統と歴史ある成蹊の教育
に少しでも貢献できるよう、
先生方のご指導をうけ、日々
研鑽して参りますので、今後
とも、どうぞよろしくお願
いいたします。

同級会

平井 敏子

(昭和19年度卒)

卒業以来六十五年目の同級
会が、去る六月に催され、戦
時下、成蹊時代の四年間を、
勤労奉仕や学徒動員で駆り出
されて、辛酸を共にした十六
名が、当時を回想して夜の明
けるまで語り合いました。明
くる日、有志四人で同窓会総
会の会場を訪れました。男女
混成の吹奏楽演奏が行われた
時は、「えっ！成蹊に男子
が」と驚きましたが、思えば
これが平和な時代の、自然な
在り方なのだと納得しました。
そしてこんな平和で平穏な
日々が、いつまでも続くこと
を祈り、
併せて成
蹊中・高
校の更な
る隆盛を
願いつつ、
帰路につ
きました。



木村 栄子

（昭和40年度卒）

昭和40年度卒業、第10回3年2組同級会を、平成22年9月12・13日摺上亭大島で開催併せて担任の佐藤秀子先生の古希の御祝となりました。遠くは、神奈川県川崎市から、

東京都練馬区から、仙台市、浪江町そして地元のみなさんと16名が、猛暑を乗り越えて元氣いっぱい参加してくれました。宴会では、校歌斉唱、一人一人の近況報告し合いながら、特技の舞踊、カラオケなど、学生時代には見られなかった様子を楽しむことができました。



古川 典子

（昭和52年度卒）

私の在学中は昭和53年にインターハイ全国大会が福島で開催されるという事もあり、

テニス部も猛特訓に明け暮れました。その頃の運動部といえば、体育館やグラウンドにコーチや監督の熱い声が飛び交っており、我がテニス部の喜古先生の指導される声も日をおびて熱さを増しコートに響いていました。



その喜古先生も平成22年3月に定年を迎えられ、これを機に6月26日にテニス部OG会を開催しました。昭和52年度から平成7年度までの卒業生総勢57名が喜古先生の元に集結し、当時の思い出等を語り合い楽しい一時を過ごしました。今回は恩師ご定年慰労会という事もあり、県内はもと

より東京・岩手など県外からの参加者も多数あり盛大なものになりました。

世代を越えてテニスを中心に繋がっている同志がいることを誇りに思うと同時に、テニスを通して多くの事を教えて下さった喜古先生への感謝の気持ちでいっぱいです。

穂積 裕子

（昭和55年度卒）

高校を卒業して三十年、去る八月十日「高久先生の古希を祝う会」が開催されました。

あの頃と変わらぬ顔が二十人も集合し、短い時間ではありましたが、よくしゃべり「烏合の衆」と称された、あの頃の賑やかさは健在でした。そして、そんな楽しいひとときの中幼な子を遺し二十五歳の若さで亡くなった友の冥福を祈り、健康で過ごせている今に



感謝し、次回の再会を約束しました。

福地 幸子

（昭和56年度卒）

第10回クラス会（大槻クラス）を金子先生と一緒に開催できましたこと、大変うれしく思っております。今回は新年早々の開催で、子どもが受験生という家庭も多かったようでした。

それでも、金子先生の話す成蹊高校の歩みやその思いをお聞きしたり、懐かしい思い出やお世話になった先生方の話に花が咲き、楽しいひとときを過ごすことができました。



50歳を迎える次回のクラス会を温泉一泊で計画すること、そこでの再会を約束して別れたところです。

今回は少人数でしたが、こうやってクラス会を重ねていくことは幸せだと思います。

木山 律子

（昭和58年度卒）

平成二十三年一月二日福島ビューホテルに於いて、昭和五十八年度卒「三年五組同級会」を開催しました。担任の村上博先生をお迎えし、総勢十三名が集いました。卒業後、実に二十七年ぶりの再会となりました。それでも一瞬のうちに高校時代へタイムスリッ



プ。懐かしい級友たちとの語らひに勝るものはありません。これからも時々集まろう！また五十八年度卒業生全体が集う会という思いを込めて、五十八年度をもじり「ごっぱち会」を立ち上げました。今回ご参加頂けなかった皆様との旧交も温められたら幸いです。



平成二十二年度

進路状況について

進路指導部長 二瓶 貴之

今年度の進路状況は、男子生徒数の増加に伴い四年制大学への進学志向が強まり、四年制大学の合格者数は昨年を上回る見込みです。その中でも特に、授業料や生活費が給与等が免除される特待生入試（スカシップ入試）に過去最多の合格者を輩出することができましたことは喜ばしいことです。短大・専門学校につきましては、就職難や雇用状況の不安定さから、看護医療、食物栄養、保育等の資格・技術系の学科に人気があり、昨年並みの成果を収めることができました。就職につきましては、依然厳しい状況が続いておりますが、二年時から計画的な指導が功を奏し、JA新福島、福島製鋼をはじめ、東京消防庁等に内定をいただくことができました。今後も内定率十割を目指し粘り強く指導してまいります。

今後も全生徒が合格の二文字を掴み取れますように教職員一同、精一杯支援してまいります。

平成22年度 進路状況 平成23年2月21日現在（一部の学校のみ記載）

国公立大	8名	宇都宮大、福島大2名、県立医大看護学部、山形大学2名、岩手県立大学、新潟県立大学
文部科学省管轄外の大学等	39名	防衛大学校21名、航空保安大学校7名、海上保安大学校6名、防衛医科大学校附属高等看護学院5名
私立大	392名	明治大、中央大、法政大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大、津田塾大、成蹊大、武蔵野大、東京女子大、東京農大、東洋大、日本大、神奈川大、東海大、帝京大（医学部を含む）、東京歯科大、獨協医科大、杏林大、東北薬科大、国際医療福祉大、東北学院大、東北福祉大、東京電機大、武蔵川女子大ほか
短期大学	38名	青山学院女子短大、立教女学院短大、武庫川女子短大、福島学院大短大部14名、桜の聖母短大10名ほか
看護医療専門学校	29名	大原看護8名、福島看護5名、ボラリス保健看護2名、県立総合衛生学院5名、横浜労災看護、藤沢市立看護ほか
専門学校	58名	郡山情報ビジネス、仙台ビューティーアート、仙台大原簿記公務員、仙台医療秘書福祉ほか
就職内定者	17名	東京消防庁、JA新ふくしま、福島製鋼、ニッテク、セキショウモバイル、陸上自衛隊、ほか

平成21年度 合格状況（一部の学校のみ記載）

国公立大	64名	東京工業大1名、東北大4名、横浜国立大2名、千葉大1名、新潟大4名、宇都宮大6名、電気通信大3名、岩手大1名、福島大10名、山形大1名、首都大東京1名、秋田大2名、北海道教育大1名、室蘭工大1名、北見工業大2名、福島県立医科大看護学部5名、岩手県立大1名、新潟県立看護大1名、都留文科大2名、高崎経済大2名、会津大1名、前橋工科大2名、秋田県立大6名、釧路公立大1名、青森公立大3名
文部科学省管轄外の大学等	56名	防衛大学校23名、航空保安大学校6名、海上保安大学校3名、国立看護大学校、水産大学校、職業能力開発大学校2名、防衛医科大学校高等看護学院13名、海上保安学校6名、航空学生
私立大	466名	慶応義塾大、早稲田大、東京理科大、中央大、明治大、法政大、青山学院大、学習院大、津田塾大、東京女子大、東京農大、成蹊大、武蔵野大、国学院大、日本大、東洋大、駒沢大、専修大ほか
短期大学	47名	福島学院大短大部11名、桜の聖母短大15名、郡山女子大短大部3名、県立米沢女子短大3名、岩手県大盛岡短大部、ほか
看護医療専門学校	21名	大原看護3名、県立会津看護2名、福島看護5名、太田看護2名、県立総合衛生学院1名、ほか
専門学校	54名	郡山健康科学、福島医療専門、仙台医療福祉、国際ビューティファッショ、ほか
就職内定者	19名	JR東日本旅客、JA新ふくしま、いちい、三井ミナーナイトメタル、陸上自衛隊、ほか

キャンパスライフ

昭和大学医学部医学科

大橋 英朗

（平成18年度卒）

福島成蹊高校第一期生として卒業してから早くも四年の月日が経とうとしています。大学では専門的な医学知識はもちろんのこと、病院実習を通して多くの患者さんと接したり、医療従事者の方々から医療現場の実際を知ることができたりと充実した毎日を送っています。今自分がこの環境で学べていることへの感謝の気持ち忘れず、相手の立場にたち、患者さん一人ひとりに向き合える医師になりたいという、日々努力してまいります。

上智大学法学部法律学科

近野 大樹

（平成19年度卒）

法律の基本である「憲法」「民法」「刑法」の他、興味を持ち二年時から履修した国際関係法の勉強に打ち込んでおります。グローバル化する現代社会においてますます必要となる法学における国際関係の分析手法に大変興味が出てきました。また陸上部（長距離）に入部しさまざまな仲間や価値観に出会い、これまでにない経験を重ねる充実したキャンパスライフを送っております。同窓生の皆さんも目標に向かって頑張ってください

22才の決意

寺島 白龍

（平成18年度卒）

平成23年1月、今春駒沢大学を卒業する寺島白龍君が同窓会室を訪問してくれた。卒業後は神奈川県にある總持寺にて、三年間の修行に入ること。その決意を松竹の水墨画に「鏡分金殿燭」を記し、

この禅語に合うような人間になりたいと、22歳の決意を印した色紙を贈ってくれた。彼の決意に若さと力強さ・頼もしさを強く感じました。

（金子記）



在校生の活動状況について

特活部副部長 石川 徹

本校には文化系・運動系を合わせて二十七のクラブがあり、それぞれのクラブ員が、目標に向かって全力で打ち込み、切磋琢磨しています。

文化系クラブでは、男子クラブ員の増加により演奏の幅を広げたギタークラブが、全国大会において銀賞を受賞しました。その後音楽堂で行われた定期演奏会も、全国レベルの演奏を聴けるとあって、生徒、保護者のみならず、一般市民も多数詰めかけ大盛況に終わりました。年間を通して、それぞれの文化系クラブ

が、大会や定期演奏会、桃李祭での発表に向けて、「いのちの楽しさ」を体現しています。

一方、今年度の運動系クラブは東北大会まで駒を進めるクラブも多く、なかでも水泳



クラブと新体操クラブ、陸上競技クラブは沖縄インターハイ出場を果たしました。特筆すべきは水泳クラブの活躍で、遠藤太陽君が男子1500m自由形で8位入賞、千葉国体でも佐藤礼菜さんが女子200mバタフライで6位入賞を果たしました。放課後は、グラウンドでも体育館でも、全国大会で活躍した生徒が懸命に練習している姿が見られ、それに負けまいと他のクラブ員も取り組むという好循環となっており、すべての運動クラブ員が、全国大会での活躍を目標に頑張っています。

また、生徒たちの意欲関心は学校活動に止まらず、例えば、斎藤あ咲さんは全日本ボウリング選手権において堂々の6位という成績を残しました。

九月には桃李祭が、さわやかな青空のもと開催されました。生徒たちが決めたテーマ



千人桃色

は「千人桃色」。桃色は成蹊色を表わし、それぞれの生徒が個性を大事にしながらも、成蹊らしさも大事にするとい



う思いを込めたものです。それは全校生の写真を用いたモザイクアートとして、具現化されました。

クラス企画の準備や発表を通して、生徒たちは大きく成長し、教員も生徒たちの良い面を再認識することができました。最優秀賞には霊山太鼓を力強く演奏した三年十組が輝き、全校生の大拍手を浴びました。

一般公開では、開場前から長蛇の列ができ、来校者数は過去最高を記録しました。その際に、生徒たちが大事にしていたのは、すべてのお客様を大事にもてなすこと。同窓

生の方々が築き上げてきた伝統を、しっかりと受け継いでくれたようです。



8月の磐梯山登山は、霧の中からの出発となりました。特に成蹊中学生は不安も大きかったはずですが、成蹊高校生の背中を頼もしく感じながらの行軍となり、中学生と高校生の双方にとって、得るものが大きい経験となったはずです。

小雨交じりの天気の中行われた阿武隈川強歩は、三十六キロの行程を、仲間と声を掛け合い励ましあうことで、生徒たちは信じられないような力を発揮し、多くの者が完歩しました。

ゴール地点では、桃李の会のみなさんの豚汁が心身を温めてくれました。



阿武隈川強歩

同窓会室にて

九月五日、とても良い天気の中、桃李祭が行われました。約三千名が来校し、大変な賑わいでした。同窓会では、同窓会室を開放、お茶にて接待、二九名の方が立ち寄ってくださいました。若い方、男子、お子様連れ、卓球の先輩と後輩の方との再会、アルバム等を懐かしく見ながら和やかな時間を過ごしていただきました。小野清子様の「ちぎり絵」の作品を提供していただき同窓会室を一層華やかにしていただきました。





昭和25年度 卒業アルバムより

2013年が 百周年です



昭和10年度 卒業アルバムより

百年の想いは世代を超えて

福島成蹊学園理事

金子 昭七



会報第16号等で写真や資料などのご協力をお願いいたしました。多くの皆様に御協力いただき感謝申し上げます。その一部の写真を拡大コピーし同窓会室に掲示しております。紀・百年という重みを強く感じさせられます。

本校は創立時に民家を借り上げて校舎とし第一歩を踏み出しました。その後三度の移築、改装による引っ越し等で資料が散逸し、残念ですが創立当時から昭和20年代の資料が不足しております。ご自宅などに眠っている写真や資料等ございましたら、是非御協力をお願いいたします。

創立百周年記念事業の準備状況は五回の準備委員会を経て、実行委員会が結成される運びになっていきます。具体的に動くことになり、同窓生の皆様の御協力がますます重要になって参ります。

そして、「桃李の精神」のもと学んだ二万四千余名の想いを、この百周年を機に一層強固なものにしたいと思っています。



一組 二組 三組 四組 五組 六組 七組 八組 九組 十組 十一組 十二組

梅本 宮崎 坂田 佐々木 五木 桃井 朝倉 佐藤 赤石 清野 天野 大橋 久保 黒川 加藤 佐藤 菅野 菅野 齋藤 齋藤 松野 田中 崎地

益太 健裕 正健 孝雅 聡佳 祐真 美美 卓香 貴裕 純奈 愛千 里沙 英彩

新幹事

事務局より

会報送付範囲拡大の決定を踏まえ、平成元年度卒業の皆様へ送付しました。今後、卒業年度を追って順次会報を送付いたします。

平成25年に創立百周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として同窓生名簿の作成を企画推進していますので、了承願います。また、昨年の総会に同窓会運営協力費をお願いをご快諾いただきました。会報送付の際に振込み用紙を同封いたしますのでご協力をお願いいたします。

尚、クラス会終了後、名簿を事務局にご提出してく

退職される先生方

副校長 吉田 貴義
教頭 安斎 精児
教諭 鈴木 邦子

敬 弔 関 係

恩師 秋葉 和夫
恩師 鈴木 俊一
顧問 桂 文子

編集後記

会報17号いかがでしたでしょうか。楽しんで読んでいただけるよう活字を大きくし、ページ数を6ページから8ページにいたしました。原稿をたくさんいただきました。悲鳴でした。皆様のご意見、ご感想お寄せください。

平成23年度 総会のお知らせ

日時／平成23年6月19日(日) 午前10時30分～
場所／グリーンパレス
内容／総会 アトラクション 懇親会
会費／3,000円
問合わせ先／福島成蹊高等学校
同窓会事務局 TEL 024-522-2049

ださい。(二千円の通信費を補助いたします。)